

「わたし自身があなたといっしょに」創世記46：1-7 12・9・2 I ヤコブは、死んでいたと思っていた息子のヨセフが、エジプトの権力者の地位にあり、イスラエルの家族を飢饉から救う為の神のご計画（神は、私達にも私達を救い、すべてを益とし、主の姿に成長させるご計画をお持ちの方）として、先にエジプトに遣わされたと聞く。ヨセフに一目会う為に喜んで出発する。住み慣れたカナンを後にして、もっと素晴らしい恵みの為に前進する。ためらいが何もなかったわけではない。一番大きな気がかりは、神と父祖たちとの間に結ばれた約束。このカナンに住み、ここでアブラハムの子孫が豊かに繁栄するという神の約束。カナンは神の約束の地。しかし今、ヤコブとそのすべての家族はこのカナンを後にして、エジプトに下ろうとしている。改めて、神のみこころを考えさせられる。神の摂理、御心に生きることをしないで、ただ自分で判断しているのではという悩み。しかし、みこころを求める祈りが続けられる限り、主は必ず私達を御霊によってご自身の御目的の中に導き入れて下さる。神が導かれる時には、主の御心に抵抗することはできない。彼は、ベエル・シェバに来た時、「神にいけにえをささげた」：1。これまでの主の導きを感謝し、これからの全行程を委ねる思いでいけにえをささげた。私達も、一步一步神に祈りたい、神を礼拝したい。困難がある時も順調に思える時も神との交わりが大切。どういう状況でも、神は摂理（御計画、御支配）の主。自分が戦いで苦戦していようが勝利しそうであれ、戦われるのは神であり、私達が戦うのではない。「気落ちしてはならない。この戦いはあなたがたの戦いではなく、神の戦いであるから」（Ⅱ歴20：15）。神に仕える者が、神との交わりのないまま、独走することはできない。：1のいけにえは、和解のいけにえかと思われる。それは、神の御心を覚え、主の摂理を意識し、その御計画を喜んで示す礼拝行為。全面的に自分を明け渡して、「神の摂理に喜んで従います」という告白の行為。「この身に起こったことは神の最善です」と、それを慎んで受け入れるという厳粛な礼拝行為。神の摂理への服従。「私に、あなたの仰せの道を踏み行かせてください。私はその道を喜んでいきますから」（詩119：35）。これは、「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」という主の祈りに通じる。この祈りは、自分のすべてを明け渡し、実に深い祈り。私達の心の内を「自分」という頑固な主人が支配している。この自分という主人が退いて、神の支配に明け渡し、神に自分の心を支配していただくことを心から願うのが、この主の祈り。神のお許しになった状況を、神に委ねて受け入れる。いけにえを捧げ礼拝するヤコブに神は仰せられた。「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトに下ることを恐れるな。わたしはそこで、あなたを大いなる国民とするから。わたし自身があなたといっしょにエジプトに下り、また、わたし自身が必ずあなたを再

び導き上る」：3，4。神は、私達にも語り掛けて下さる。しかし、忙しさに身を任せ、神の前に静まる時、ディボーション、礼拝の時を大切に確保（悪魔は、神との時間を持たせないように邪魔をする）しなければ、神の素晴らしい御声が世の雑音や自分の思いで聞こえなくなる。ヤコブのように、神を礼拝する時を持とう。神は、悩みや困難の中にいる私達に語り掛けて下さる。「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る」イザヤ41：10。「あなたがたは行って（関係作りをし、福音の種を蒔き）、あらゆる国の人々を弟子（主を信じ主について行く主の弟子）とみなさい。…見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます」マタイ28：20。「恐れなくて、語り続けなさい。黙ってはいけない。わたしがあなたとともにいるからだ。だれもあなたを襲って、危害を加える者はない。この町には、わたしの民がたくさんいるから」使徒18：9，10。ヤコブも私達も、神の特別なご計画と摂理に生かされている。身の回りで起こっているすべての事には、神のご目的がある。御自身のもとに私達を引き寄せる神のみわざ。さらに神の召しに応える者に造り変える神の招き。「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです」ペリピ1：6。すべてを支配しておられる神が、私達の人生の全行程を導いて下さるという事実をもっと信頼する者へと変えていただきたい。そのように祈りたい。「恐れるな」と語って下さる神が、私達のそばに、共にいて下さることを深く覚えたい。「わたし自身があなたといっしょにエジプトに下り、また、わたし自身が必ずあなたを再び導き上る」と語られている。神が、すべてのことを私達に任せられ、そして私達が、そのすべてを自分の力でしなければならないということではない。すべてを支配しておられる摂理の神は、私達の歩みの全行程の支配者。現在、自分の何かの働きで弱さがあったり、自分の願いが実現しない事があっても、失望したり、やけになったり、落ち込む必要はない。「いつでも祈るべきであり、失望してはならない」ルカ18：1。見える結果や状況に依存して、主から目を離して、自分だけを見つめたり、困難な状況を自分の狭い視点だけで見つめたりせず、見えない神の摂理、御支配、深いご計画、を覚えて、人生の一つ一つに主権者の御手を信仰の目で見ることができるよう祈りたい。私達が自分の力で支配する人生ではない。神に拠り頼み、御心を祈り求めて一步一步、歩む人生。自分で自分の命を生み出した人はいない。私達は皆、神により造られ、命をいただき、今も一日一日、神により生かされている。主がいっしょに歩み、祈りつつ歩む時、主が導いて下さる人生。「あなたのみこころのままを、なさってください」マルコ14：36